

都市の3Dデジタルマップの実装に向けた産学官ワーキンググループ（第9回）

議事要旨

日時：令和6年10月16日（水） 17時00分～19時00分

場所：オンライン開催

<WGでの主な意見>

- ・東京都が整備するモデルは基礎自治体がユースケース開発に活用できるが、活用に至らない自治体もある。要件定義書の改定では、自治体へのヒアリングなどで今後の想定ユースケースを捉え、東京都の整備の思想に取り込んでいくことで、効率的に自治体のユースケース開発に繋がられるのでは。
- ・今年度整備する島しょ部では、LOD1モデルの作成に点群データを活用するが、LOD2モデルの作成においても同様に点群データを活用することで、容易かつ安価に作成できるのではと感じる。今後、LOD2モデルの作成の際には、実験的に活用してみるのも良いのではないかと。
- ・3次元データの様々な活用に向けては、海外事例も踏まえると、足元の行政側が日常業務で使っていくことが重要。そのためには、いくつかの候補を議論して、有望なものを実現させていく必要がある。
- ・PLATEAU、東京都による整備が進むなか、東京都としてのサービスを作っていく段階に入ってきたと感じる。行政側が全てを揃える必要はなく、民間のデータやビューワなどと組み合わせることでラストワンマイルのピースを埋めていくような建付けが必要になってきていると感じる。
- ・点群データを活用した3Dモデル作成のノウハウ・ナレッジは、今後のデータ整備・更新のコストなどにも関わる部分であり、今回の東京都の成果が、色々な形で他の自治体に広がっていくと良い。同時並行で、引き続き海外と連携していくことも重要。
- ・今後、地上ドローン、配送用ドローン、ドローン走行用道路のようなものが話題になってくると思われる。東京都による整備・更新では、そうしたものも視野に入れて、関係者と議論し、将来的に要件定義に反映すると良いのではないかと。

<今後のスケジュール>

- ・次回（第10回）ワーキンググループは年度内の開催を想定

以上